えびの市市勢要覧

えびのふるさと模様

2008

宮崎県・えびの市

えびの市長　宮崎道公

発刊にあたって

えびの市は、宮崎・熊本・鹿児島3県の県境、南九州のほぼ中央に位置しています。南には霧島屋久国立公園、北には九州山脈、中央には県内で唯一西流する川内川があり、風光明媚な田園都市であります。昭和41年に加久藤町、真幸町、飯野町の3町合併によりえびの町となり、昭和45年12月に市制施行後、本年で38年を迎えます。

平成7年の九州縦貫自動車道全線開通以来、隣県主要都市までは約1時間、福岡・北九州までは約3時間でアクセス可能となりました。産業・経済・文化の人的・物的な交流拠点として優位性を発揮し、今後もますますの発展が期待されます。

「人と自然が“ほっとな”えびの―活力・ぬくもり・癒しのまち―」と将来像を定め、生きがいと豊かさが実感できるまちづくりを目指して参ります。この将来像実現に向けて地域の持つさまざまな資源を活用し、効率的な行財政運営、近隣市町村との広域的な連携、人材育成と市民参画を図りながら21世紀にふさわしい活気あふれるまちを築くために、全力を傾注して参ります。

この要覧を通していささかでも、わが郷土えびの市をご理解いただければ幸甚に存じます。

えびの市市勢要覧 2008

目Contents次

第一章
2 「過去から未来へ」
4 えびの市の歴史
6 えびの市の現在
8 えびの市の未来
10 自然が魅せる喜怒哀楽〈四季彩百景〉
14 季節のイベント・伝統の祭
18 地産地消 えびのスタイル

第二章
20 「えびのに暮らす」
22 農　業
24 畜産業
26 商工業
28 社会福祉
30 児童福祉
32 安全防災・環境整備
34 社会教育
36 学校教育
38 保健・医療
40 行政・議会
42 えびの人物列伝 ふるさとの偉人たち

第三章
43 「資料編」

過去から未来へ

時の流れを縦糸に　豊かな自然を横糸に
歴史が織りなす　ふるさと模様

えびの市の歴史は、人類が狩猟を主として暮らしていた旧石器時代にさかのぼります。小林市との境にある八幡丘遺跡からはナイフ型石器が発見されており、熊本県境にある桑ノ木津留地区は、石器の材料となる黒曜石の産地として知られています。他にも市内では縄文時代早期の土器や調理のこん跡である集石遺構が数多く発見されており、このころから多くの人々が居住していたことがうかがえます。桑田遺跡では、イネ科植物が枯死した後も土壌中に化石として残る「プラントオパール」を検出、縄文時代晩期には稲作が始まった可能性があるとみられています。古墳時代に市内各地で造られたと思われる、地下式横穴墓や板石積石室墓は南九州独特の墓制で、島内地下式横穴墓群や小木原地下式横穴墓群はその代表的なものとして知られています。

大化の改新以後、律令国家の成立に伴い全国は国・郡・里に分けられ、現在のえびの市域は日向国諸県郡に属しました。全国各地は官道で結ばれ、それぞれの地方には中央政府との連絡のため駅家を設置。えびの市域にも真斫駅が置かれました。古代寺院である法光寺が建立されたのもこの時期で、比定地からは瓦片が発見されています。

奈良時代中期に墾田永年私財法の制定によって、律令国家の基礎である公地公民制度が崩壊すると、私領である荘園の開発が全国で進められ、南九州には日本最大の荘園である島津荘が成立。えびの市域は島津荘の寄郡である真幸院に属します。永暦元年、そこに院司として任じられたのが日下部重貞。後に鎌倉幕府の執権北条氏と交誼を結び真幸院の実権を握りますが、幕府の滅亡とともに衰退。その後、畠山忠顕が一時期を支配しますが、康永４年に肝付氏氏族である北原兼幸が真幸院司として任じられた後は、北原氏による支配が続きました。

応仁の乱を境に、室町幕府の権威が失墜し戦乱の世となると、南九州では島津氏と伊東氏がその覇権をかけて対立。衰退した北原氏は島津貴久の支配下に入り、真幸院の拠点であった飯野城には貴久の次男である島津義弘が入城します。そして迎えた元亀３年５月に木崎原の合戦がぼっ発。この戦で、極めて劣勢であった島津義弘の軍勢は、義弘の巧みな軍略により伊東軍を撃破して勝利を収め、その後各地に進出して九州のほぼ全域を支配下に治めました。

島津氏は豊臣秀吉による九州征討によりその軍門に下りますが、秀吉により薩摩国・大隅国・日向国諸県郡を領地として安堵され、その後284年間にわたりこの地を支配することとなります。島津氏は領国を外城に分割し、そこへ半農の武士である郷士を置き、麓と呼ばれる集落に居住させました。外城は天明４年（1784）に郷に改められ、えびの市域には飯野、加久藤、馬関田、吉田の各郷を設置。農民は薩摩藩独自の土地制度である門割制度の支配下に。また、交通の要衝であった当地には、球磨郡に通じる肥後街道に球磨口番所（榎田関）が置かれました。

明治維新による版籍奉還・廃藩置県により薩摩藩が消滅すると、えびの市域は都城県に属しますが、やがて都城県は廃止され宮崎県に。その後、鹿児島県に併合後、再置され現在の宮崎県に至ります。えびの市域も明治初期に名称の変更と合併を重ね、明治22年には飯野村・加久藤村・真幸村となりますが後に町制を施行。廃藩置県後に起きた西南の役では薩軍と官軍の激戦地となりました。

第二次世界大戦後、昭和41年には飯野町・加久藤町・真幸町が合併しえびの町となり、昭和45年には市制を施行し現在に至ります。

■長善寺住職墓石群

■白鳥神社

■木崎原古戦場跡

■三徳院

■大戸諏訪神社絵巻物

EBINO HISTORY

ふるさとに伝わる　あんな話し、こんな話し

寛幸さん：田の神さあというのは、神さまの中で唯一たたらないと云われている神さまなんです。私たちが子どものころはこの上に乗ったり頭を叩いたりして遊んだもんです。親たちが供え物を持っていくと子どもたちがその後をついて行って、お供えしてあるものを取ってましたよ。小銭やお菓子なんかをね。今の子たちはそんなことはしないようですね。

さえこさん：実家にも田の神さあがありましたが、母親がおだんごをあげるのが楽しみでしたねぇ。

寛幸さん：今でも大事にされている田の神さあがたくさんあります。京町共立病院の近くにある田の神さあには、患者さんたちが散歩されるとき、お花を供えてお参りされているんですよ。

市田寛幸・さえこさんご夫妻

川内川上流の眼鏡橋

木材運搬のトロッコ軌道用に昭和３年に建設された石造りの三連アーチ橋。橋長58.2m、橋高17.2m、県内最大規模の石橋で国登録有形文化財。

優しさを基調に 鮮やかな配色で
時代を映し出す ふるさとの現在

本市は、県内で唯一西に流れる川内川の最上流部に位置しています。その川内川は美しい水をたたえ、肥よくな大地を形成し、その恵みにより、えびの市民は古くからおいしい米づくりを行ってきました。えびの産米は、現在では、質・量ともに県内最高峰を誇っています。

戦国時代は、激しい領地争いの戦場になったこともありますが、その文化が地域に根付き、今でも市内には地域ごとに兵児踊りや輪太鼓踊りなどの伝統芸能が地域の人たちによって継承されています。また、米づくりの営みによって、豊作への願いを込めて、市内各地で田の神さあがまつられています。その数は、確認されているだけでも140体あります。

一方、日本で最初の国立公園「霧島屋久国立公園」の一部であるえびの高原は、世界でここにしか自生していない国指定天然記念物の「ノカイドウ」など、その雄大な自然が四季折々に美しく変化し、私たちを癒しの空間へと導きます。その癒しの空間の中で温泉につかるというぜい沢ができるのも、本市ならではの過ごし方です。えびの高原をはじめ、白鳥温泉など、市内には数多くの温泉が湧出していますが、市内西部の京町地区には、県内随一の温泉郷「京町温泉郷」があります。

これらの景観が美しく融合したその風景が、今、注目を浴びています。ＪＲ肥薩線から展望する霧島連山を背景に広がるえびのの田園風景のパノラマは日本三大車窓の一つです。

この美しい風景はドライブでもたん能できます。九州自動車道を福岡から南に２時間半ほど、熊本からでも１時間ほど走って加久藤トンネルを抜けると一気に目の前に美しい風景が広がります。少し先には高速道路の分岐点「えびのジャンクション」があり、宮崎市、鹿児島市へそれぞれ１時間程度での移動が可能です。また、鹿児島空港には25分程度での移動が可能で、非常に交通の便利な場所に位置しています。

このような豊かな自然環境や便利な交通網という利点から、南九州コカ・コーラボトリング株式会社や、果物の追熟・加工を行う株式会社フレッシュシステムが進出するなど、今後も、新たな企業の進出が期待されています。

南九州コカ・コーラボトリング株式会社の関連企業が操業後、「グリーンパークえびの」がオープン。市民・企業・行政が協働してイベントを行うなど、本市の中核企業、観光拠点としての波及効果を最大限に活用しています。また、企業誘致や市内既存企業の振興を図るために、企業訪問や異種業種を交えた企業等の産業交流会を開催し、新たな起業発掘の環境を整えています。

まちづくりの基本である人づくりは、その原点を生涯学習と位置づけ、学校教育、社会教育、市民スポーツの充実を図っています。さまざまな学習情報の提供や学習機会の拡充に努め、出前講座やふるさと教育、文化活動が充実しています。

また、いつでも、だれでもスポーツに親しめる総合型地域スポーツクラブは、真幸地区、飯野地区に引き続き、加久藤地区でも活動が開始され、市民の健康増進と体力の向上が図られています。

このように、人と自然、資源が豊かなえびの市では、市民・企業・行政が協働して生きがいと豊かさが実感できるまち、個性的で活気あふれる魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

■福山通運

■えびのインターチェンジ

■プラッセだいわ

■フレッシュシステム

■グリーンパークえびの

EBINO HISTORY

ふるさとにまつわる あんな話し、こんな話し

隆文さん：自分が子どものころは国道268号沿いも田んぼばかり。昔は車もそんなに多くなかったし。

巳華さん：私が嫁いできたのが10年前だけど、今とはあまり変わらないかな。お店も随分できてたし。

隆文さん：高速道路が開通してからだろうね、いろんな店舗ができて、車も増えたのは。企業が来てくれるとみんな足を運んでくれる。えびのはアクセスがいいよね。うちの店の駐車場を見てもわかるけど車のナンバーは鹿児島、宮崎、熊本とさまざま。だから店に置いてる焼酎も芋、麦、米とさまざまだし。

巳華さん：でもなにより、えびのには自然がいっぱいあって、子どもたちにとっていい環境だなと思う。ここに住んで、いつも一緒に仕事ができて、今はほんとに楽しいね。

小園隆文さん・巳華さんご夫妻

自由なタッチで　のびやかなラインで
子どもたちが描き出す　ふるさとの未来

霧島屋久国立公園の北端、九州山脈の南部に位置する本市は、えびの高原や矢岳高原等の山地・丘陵地により盆地を形成し、中心部には水豊かな川内川の恵みを受けた肥よくな田園平野を有しています。これらの豊かな自然環境は、えびの市の宝であり、長く後世に残していかなければなりません。そのためにも環境にやさしい施策を進めています。

また、九州縦貫自動車道を中心とする交通網の整備・発達によって、本市は南九州の各拠点を結ぶ中心都市として位置づけられ、人や物が行き交う「交流拠点」となっています。この優位性を最大限に発揮することで、新たな企業の立地の期待がさらに高まってきます。余暇時間の増大や自然志向の時代にあり、発達した交通網は県内外から多くの観光客を呼び込み、豊かな自然環境を人々に提供する可能性をもたらしています。

しかし一方では、若者を中心とした人口流出と、宮崎県の平均を上回る高齢化率など、少子・高齢社会の進行による地域活力の衰退や基幹産業である農業の後継者不足、農畜産物の輸入自由化等による競争激化など、本市を取り巻く環境は、これからのまちづくりに深厚な問題を投げかけています。

このような時代の流れを踏まえて、21世紀にふさわしい活気あふれる魅力あるまちを築くためにも、地域の特性を生かした個性豊かなまちづくりを進めていく必要があります。そのためには、地域の持つさまざまな資源を有効に活用し、独自性を発揮するとともに、近隣市町との連携を図ることも必要です。

また、真に豊かな生活を送ることができるよう、生涯学習や社会参加活動の充実、男女共同参画社会の形成、国際交流促進による異文化交流等を積極的に進め、「人づくり」に取り組んでいくことも必要です。本市も高齢社会となっていますが、本市の高齢者は元気な人たちが多く、その一つひとつの笑顔はきらりと輝いています。これからも高齢者の皆さんに、住み慣れたこのえびので、いつまでも元気で生き生きとした生活を送ってもらえるような取り組みを進めていきます。

今後は「市民は何をすべきか、行政は何をすべきか」、市民と行政がその役割を明確にし、一緒になってまちづくりを進めていくことも必要となってきます。本市に住む人が、働き、学び、自然や歴史、文化を守り育て、憩い楽しみ、生きがいと豊かさを感じ、住んで「本当にいいまち」と実感できること、さらに、本市を訪れる人々が、豊かな自然、温かい心にふれることができ、「またえびのに来たい」「えびのに住みたい」と思ってもらえるよう、観光資源や特産品をはじめとするえびのの魅力を全国に発信していきます。

市制施行以来掲げてきた「田園観光都市」と、これまで市民と行政が一体となって取り組んできたテーマである「住みたいまちをめざして～田の神文化に花咲くえびの市～」を継承しながら、「人と自然が“ほっとな”えびの～活力・ぬくもり・癒しのまち～」の実現に向けたまちづくりを進めます。

■国際交流フェスタ

■国際交流センター

■世代間交流

■高齢者スポーツイベント

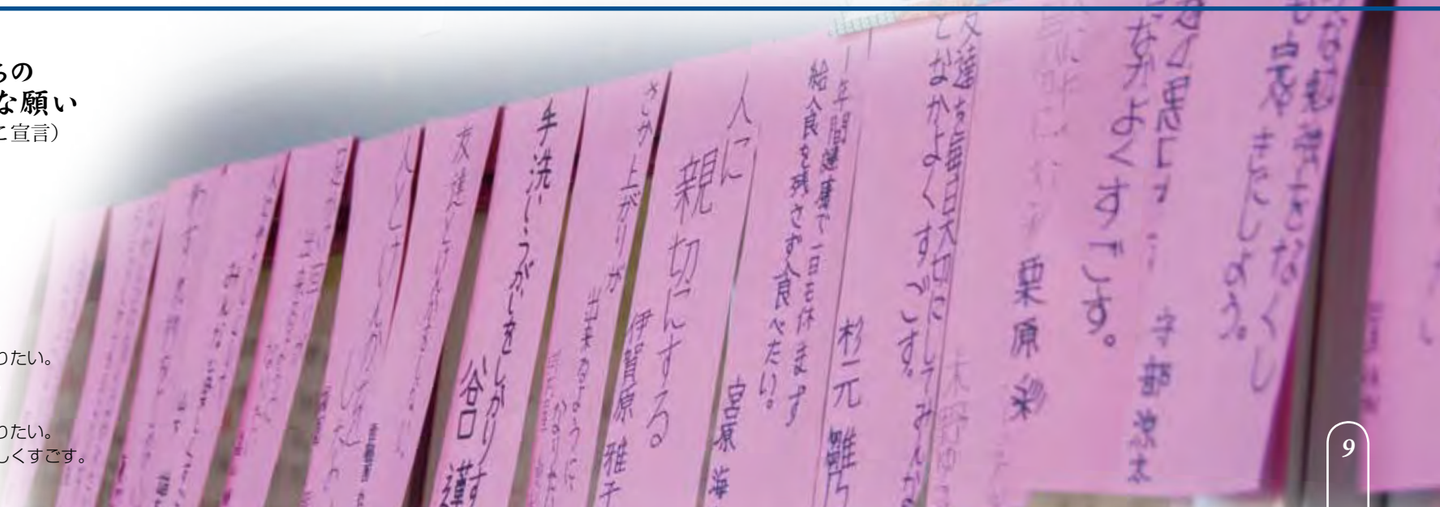
■地域交流イベント

EBINO HISTORY

ふるさとのこどもたちの あんな思い、こんな願い

（飯野小学校のちびっこ宣言）

- やさしい人になりたい。
- 苦手な勉強をなくし何でも完ぺきにしよう。
- 友達を毎日大切にしてみんなとなかよくすごす。
- 一年間健康で一日も休まず、給食を残さず食べたい。
- 人に親切にする。
- さか上がりが出来るようになりたい。
- 手洗いうがいをしっかりする。
- 友達とけんかをしない。
- 足かけ回りが出来るようになりたい。
- 人にやさしくしてみんなと楽しくすごす。



自然が魅せる
喜怒哀楽

春

**新しい季節の訪れを喜ぶ
花たちの優美な饗宴。**

上：えびの高原
韓国岳の裾野に広がるつつじヶ丘は、霧島屋久国立公園内でも指折りのミヤマキリシマの群生地です。

下：八幡丘公園
えびの市の東、飯野地区にある桜の名所。美しい花のトンネルが訪れる見物客を出迎えます。

夏

**眩しく踊る日射しに溶けて
澄んだ水面にしたたる緑。**

上：クルソン峡　クルソンとはお釈迦様になる前の仏陀の名。山伏たちの修験の場であった峡谷は隠れた避暑地としても知られています。

左：弁財天池　霧島山系の湧水が清らかな美しさをたたえる湧水池。市内には計４つの湧水池があり、えびのの豊かな田園を潤しています。

下：川内川　えびの市内を北東から西へ貫流する雄大な流れ。山女魚や鮎漁が解禁になると宮崎県内外から多くの釣り客たちが訪れます。

四季彩百景 【高原に咲く 春の花】

ミヤマキリシマ
霧島一帯に自生し春から初夏にかけて紫紅色の花を咲かせる。

エビネ
ラン科の多年生草本。かつては霧島山の照葉樹林内に咲き乱れていた。えびの市の花として昭和53年に制定。

ノカイドウ
世界中でもえびの高原とその周辺のみにしか自生しない稀少植物。

ハルリンドウ
草丈はわずか10cm程度。えびの高原のつつじヶ丘に多く自生する。

（写真提供：えびのエコミュージアムセンター）
※エビネは除く

【高原に咲く 夏の花】

ノリウツギ
白い花弁のような装飾花と房状の両生花をつけるアジサイの仲間。

ツチアケビ
ラン科の腐生植物で秋にはアケビのような紅色の小さな実をつける。

コバギボウシ
霧島山の日当たりの良い湿地に多く自生。紫色の清楚な花が印象的。

ネジキ
その名の通りねじれた幹に白く小さな釣鐘状の花を一列に咲かせる。

（写真提供：えびのエコミュージアムセンター）

自然が魅せる

喜怒哀楽

上：コスモス畑
ループ橋がかかる加久藤峠を背に白やピンクのコスモスが咲き乱れるグリーンパークえびの。えびの高原と並ぶ花の名所としてもおなじみ。

下：えびの高原
辺り一面えび色に染まる高原のすすきが原。えびのを象徴する風景でもあり地名の由来とも伝えられています。

秋

えび色に染まる高原から
風が運ぶ憂いの季節。

冬

冬将軍の怒りに触れて
荒涼と色を落とす大地。

上：韓国岳（からくにだけ）
標高1700mを誇る霧島連山の最高峰。晴天の日は遠く韓国まで見渡せるといわれ、雪を冠したその雄姿も格別の美しさがあります。

右：白鳥温泉／下湯
えびの高原に向かう途中にあり、与謝野寛・晶子夫妻らも訪れた歴史ある温泉です。上湯には西郷隆盛も訪れています。

左：アイススケート場
韓国岳の麓で大自然を感じながら滑る醍醐味はこの時期ならでは。えびの高原の冬のおすすめスポットとなっています。

四季彩百景 【えびのを彩る　秋の樹木】

白鳥神社の楓
道行くものの足を止める鮮やかな色。境内も美しい秋の彩りで染まる。

えびの高原の霧島赤松
赤褐色の樹皮と常緑の針葉、美しい天然林はえびののシンボルツリー。えびの市の木として昭和53年に制定。

飯野の大銀杏
県指定文化財で推定樹齢は500年。眩しい黄金色が晩秋の飯野に映える。

散策路の杉巨木
触手を伸ばす様に枝を広げ、そびえる巨木は五百数十歳を数える老樹。

【森を飛び交う　野鳥たち】

コゲラ
キツツキの仲間で体長は15cmほど。黒茶色の羽根に白いはん点模様が美しい。（写真提供：久松由正氏）

シジュウカラ
白、黒、灰色のコントラストが印象的な鳥。年間を通してよく見られる。（写真提供：古江之人氏）

ヤマガラ
名の由来は腹の羽色の山吹色より。堅い木の実を割って食べるのが得意。（写真提供：古江之人氏）

ブッポウソウ
存在感のある青い羽根と赤いくちばし。「ゲッゲッ」という鳴き声も特徴的。（写真提供：古江之人氏）

季節のイベント
伝統の祭り

■ 打植祭

毎年三月の初卯の日に行われる五穀豊穣を願う祭礼。香取神社の祭神である女神様が天宮神社の天宮様を出迎えに行き、香取神社で年に一度の再会を果たすと伝えられ、木牛による農耕の打植神事などが行われます。

■ えびの京町温泉マラソン大会

京町温泉周辺のコースを競い合うマラソン大会。霧島連山や川内川を眺めながら爽やかな汗を流した後は心地よい温泉が待っています。

春

■ 大太鼓踊り

直径120センチもある大太鼓を抱えて勇壮に踊る、通称「ウバッチョ（大ばち）踊り」。400年以上の歴史があり西長江浦の南方神社大祭で奉納されます。神社の旧称が諏訪神社であることから地元では「おすわさあまつり」の名で親しまれています。

■ 牛越祭

高さ50センチの丸太越えに牛たちが果敢に挑む伝統行事。西川北地区の菅原神社で開催される全国でも珍しいこの神事は、400年の歴史をもち宮崎県の無形民俗文化財にも指定されています。

■ 韓国岳山開き

霧島連山の最高峰として知られる名峰韓国岳。本格的な登山シーズンを迎え、多くの登山客らが山の安全を祈願します。

■ 八幡丘公園夜桜ライトアップ

小高い丘の上の公園は市内随一の桜の名所。650本を数えるソメイヨシノやオオシマザクラが開花する3月下旬から4月上旬、日没と同時に園内のぼんぼりに灯された明かりが、満開の桜を艶やかに照らし出します。

■ 馬頭観音祭

家畜の無病息災と家内安全を祈願し市内各所の観音堂で行われる伝統行事。古くから牛馬の飼育が盛んだった本市では馬頭観音はその守り神とされ、えびの高原の六観音御池にある馬頭観音が起源であると伝えられています。

夏

■ 京町温泉夏祭り

市内を流れる川内川河川敷で開催される夏の風物詩。会場にはさまざまな出店が立ち並び、園児たちによる子どもみこしや踊りの披露が祭りを盛り上げ、フィナーレには約8000発の花火が夏の夜空を彩ります。

季節のイベント
伝統の祭り

■ 金松法然祭

200年以上も昔、栗下村にふらりとやってきて住み着きその法力で村人たちの苦難を救った法然和尚。焼酎好きで知られた法然の命日に行われる供養祭では、伝統の輪太鼓踊りや兵児踊りが奉納されます。

■ 田の神さあの里
産業文化祭と
田の神さあおどり大会

収穫の秋を彩るえびのの代表的なイベント。旬の農産品や市民が手がけた文化作品など、さまざまな逸品が出展されます。また「田の神さあおどり大会」も同時開催。趣向を凝らした踊り手たちが会場を練り歩き、祭りを盛り上げます。

秋

■ 白鳥観光祭

えびの高原へ向かう途中にある白鳥温泉上湯・下湯・白鳥神社で開催される秋祭り。地元の特産品を集めた物産市などのイベントも行われ、見ごろを迎えた美しい紅葉が観光客らを出迎えます。

■ 餅勧進

厄年を迎える男女が厄払いに行うユニークな伝統行事。奇抜な化粧や衣装で変装し、グループとなって友人・親類宅を訪れ歌や踊りで騒ぎ立てて厄を払い、無病息災や家内安全を祈願します。かつては訪問先の家々でお礼に餅を出していたことが名の由来です。

■ 竹はしらかし　青竹を燃やしながら一年の無病息災を祈願する正月行事。一般的にいう、どんど焼きのことで、竹で組んだやぐらに火を放ち門松や注連縄と一緒に生竹をくべ、炎にはじける音で厄を払います。焼いた竹を木戸口に立て掛けておくと魔よけになると伝えられています。

■ 飯野植木市

飯野地区の商店街を会場に開催される春恒例の植木市。庭木や花苗、盆栽などの販売店や数々の露店など100店以上もの店がずらりと並び、県内外からの買い物客らでにぎわいます。

冬

■ 京町二日市　厳冬の二月に開催される南九州最大の買い物市。京町温泉街の中心部約2kmが歩行者天国となり、400店以上ものさまざまな露天が並びます。二日間にわたるイベント期間中20万人以上の見物客が県内外から訪れます。

地産地消 えびのスタイル

地産地消と食育の普及を目指し
平成13年に宮崎県が設立した
「みやざきの食と農を考える県民会議」では
毎月16日を『ひむか地産地消の日』とし
家庭や学校、生産や流通の現場などで
地産地消を実践することを推進しています。
米どころとして知られるえびの市は
平成14年から週5回の給食を
100%地元産ヒノヒカリを使った
完全米飯給食に切換。
畑から教室まで、えびの市の学校給食には
地産地消の取り組みが生かされています。

安心安全な旬の食材は すべて自慢の メイドインえびの。

いちご生産者／谷口克美（たにぐちかつみ）さん(64歳)

このハウスではサガホノカという品種を約8000株栽培しています。苗作りから収穫まで、とにかくいちごは手がかかります。7月～8月までが育苗期間で9月に定植し、出荷は11月後半から。最盛期は4月から5月ですね。ここでの受粉はミツバチの仕事。花粉を出し、蜜を出した花のまわりをハチたちがぐるっと回りながら受粉していきます。小さく実った粒が赤く色づき始めたら毎日収穫、毎日出荷です。いちごは手っ取り早く食べられるのがいい。小さな子どもさんからお年寄りまで食べてもらえるのもうれしいですよ。

野菜生産者／木原保則（きはらやすのり）さん(64歳)

私はもう40年以上もこのえびので農業をしよる。えびのの土は半分が黒土で半分が火山灰土。霧島の影響でしょうかねぇ。ここの畑は黒土やけど、ある程度有機質で作ろうと薬も控えめにしてます。大根の場合は、8月23日ごろ、雨が降って2～3日くらいで畑にまだ水分が残っとる状態の時に種をまきます。芽が出るときれいでねぇ。黒土の上に緑の双葉がびっしりで。収穫するのは11月～12月ごろから始めて4月末くらいまで。この品種は青首っていうけど冬は糖度が増して、生でも、おろしても、炊いてもうまい！

米生産者／園田義保（そのだよしやす）さん(57歳)
【第一回えびの市米食味コンクール優勝】

親父の跡を継いで米作りを始めたのが平成元年ごろからです。品種はヒノヒカリ、えびのの気候に合った品種です。田んぼの広さは104アールで30kgを160袋JAに出しています。生産者としてはまずはおいしい米、買ってもらえる米を作ることが大事です。米のおいしさを理解させるには小さいころからうまい米を食べさせること。毎日食べているとその味がわかってくるんです。だからえびののお米を給食に使うのは大いに良いことだと思いますね。

育ち盛りの子どもたちに バランスの取れた おいしいメニューを。

給食センター
飯野地区にある「えびの市学校給食センター」では市内10の小・中学校に提供される1947食が週5日作られています。

米を洗う
主役はえびの産ヒノヒカリ。宮崎県やえびの市、JAえびのなどによる地産地消補助金が役立てられています。

材料を切る
厨房では調理師の皆さんが手作業でにんじんの皮むき。この日のおかずにはどんなカタチで登場するのでしょう。

メニュー作り
おいしくて健康的な献立を考えるのは2人の栄養士さん。毎日のミーティングでは調理士さんも一緒に今日の仕事の総括や明日の調理の手順などについても確認を行います。

炒め
大鍋でさまざまな材料を炒めていきます。作業の内容に応じて人の手と機械をうまく使い分けて調理をします。

分配
味を整えたらでき上がり。大鍋で作ったおかずをそれぞれクラスごとの食缶につぎ分けていきます。

配送
給食センターから3台の配送車で市内各所の小・中学校にできたての給食が運ばれていきます。生徒数が少ない分校へは保温ボックスであつあつキープ。

毎日どんなメニューか楽しみ。 今日も元気に『いただきまぁ～す！』

【給食搬入口へ】
12時20分に午前の授業が終わったら各クラスの給食当番は着がえて給食搬入口へ向かいます。

【給食を運ぶ】
クラスみんなの給食を担任の先生と一緒に教室まで運びます。こぼさないようにみんな気を付けて！

飯野小学校 給食の時間

【配膳】
一つ一つの食器に給食をつぎ分けていきます。1年生の配膳は6年生がお手伝い。「それは量が少し多いよ」指示も的確。

【いただきます】
準備ができたら給食当番の合図とともにみんなで手を合わせて「いただきます」。ご飯食のえびの市ではみんなおはしを使っています。

「もう待てない！」
「早く食べたいよ～」

★この日の献立★

いちご
ちびっこも大好きな真っ赤ないちごは甘くてジューシー。ビタミンCを補給して風邪予防。

せんぎりだいこんいため
切り干し大根にスクランブルエッグとしらすを加え、甘めに仕上げたカルシウム満点の逸品！

むぎごはん
えびの産のヒノヒカリに5%の麦が入っています。

ぶたにくとさといものみそに
豚肉とにんじん、だいこん、しろねぎ、ごぼうなどたっぷりの冬野菜を煮込んで醤油と味噌で味付けします。

えびの市では毎月の献立に児童たちからのリクエストメニューを盛り込んでいます。人気メニューは「あげぱん」「チキン南蛮」など。

えびの市市勢要覧

第二章

えびのに暮らす